【計画全般】1）流出量を調整できる森林を育成するなど、自然力を活用した治水対策を優先して考えるべき。

森林の機能については、下記の図-1，2 に示すように日本学術会議答申（平成 13 年 11 月「地球環境・人間生活にかかわる農業及び森林の多面的な機能の評価について（答申）」）において、森林の多面的な機能について評価する一方で、森林の水源かん養機能（洪水緩和機能等）について、「治水上問題となる大雨のときには、洪水のピークを迎える以前に流域は流出に関して飽和状態となり、降った雨のほとんどが河川に流出するような状況となることから、降雨量が大きくなると、低減する効果は大きくは期待できない。このように森林は中小洪水においては洪水緩和機能を発揮するが、大洪水においては顕著な効果は期待できない。」と指摘しています。

天塩川の河川整備における治水・利水計画は、流域の約 7 割を占める森林（図-1 参照）をはじめ現状の土地利用を踏まえて作成しており、森林とダムの両方の機能が相まってはじめて目標とする治水・利水安全度が確保されます。

また、今後とも、洪水時の流出形態と土地利用の関係を検討するための基礎となる雨量や河川の水位、ダムの貯水位、放流量などに加え、画像情報や堤防をはじめとする河川管理施設の挙動に関するデータなどの河川情報を収集して参ります。

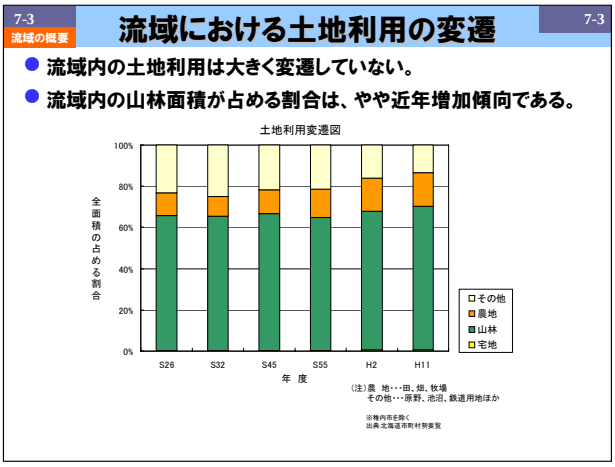

図-1

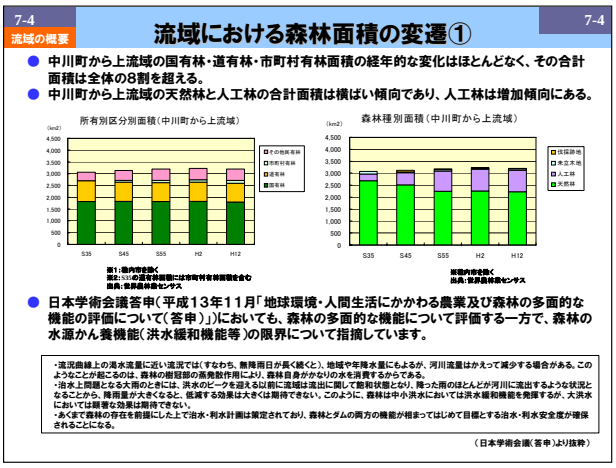

図-2